

名勝・臼井八景

とおべ

らくがん

# 遠部落雁

手を折りてひとつふたつとかぞふれば  
みちてとおべに落つる雁がね

鹿島川が印旛沼に流れ込むあたりは、昔から遠部と言  
われてきた。この川口一帯には鹿島川が運んできた砂に  
よって広い洲ができる、そこは鳥たちにとつて、この上な  
い遊び場であつた。秋になると付近の稻や粟が実つて渡  
り鳥の格好の餌場となり、また安全な休息地でもあつた。

沼辺の芦が枯れ始める頃、列を作つて飛んできた雁の  
群がこの砂浜に舞い降りてくる。そして長旅で疲れた翼  
を休め、餌をついばんで空腹を満たしていた。飛んでき  
た雁の列眺めて、指を折りながらその数を一つ、二つ  
と数えているとちょうど指いっぱいの十という数になつ  
たとき雁たちは遠部の浜に落ちるように舞い降りてきた。  
と、前掲の歌は十と遠部を掛けて落雁の風景を詠んで  
いる。